

POINT

- ✓ be動詞には主語と後ろの語句を結ぶ役割があります。
- ✓ 否定文を作るときは、be動詞の後ろにnotを入れます。
- ✓ 疑問文を作るときは、be動詞を主語の前に持ってきます。
- ✓ 短縮形では、I amはI'mに、You areはYou'reになります。

1 ()内から適する語を選んで○で囲みなさい。(1問1点)

肯定文	① I (am ・ are) Mike.	ぼくはマイクです。
	② You (am ・ are) Sachiko.	あなたはサチコです。
疑問文	③ (Am ・ Are) you Yuki?	あなたはユキですか？
	④ — Yes, I (am ・ are).	(③に対して) はい、そうです。
	⑤ — No, I (am ・ are) not.	(③に対して) いいえ、ちがいます。
	⑥ (Am ・ Are) I John?	ぼくはジョンなの？
	⑦ — Yes, you (am ・ are).	(⑥に対して) うん、そうだよ。
	⑧ — No, you (am ・ are) not.	(⑦に対して) いいえ、ちがうよ。
否定文	⑨ I (am ・ are) not from Japan.	私は日本出身ではありません。
	⑩ You (am ・ are) not from Australia.	あなたはオーストラリア出身ではありません。

2 ()に適する語を書きなさい。1つの()内に入る語数は1つです。(1問1点)

① I () Yumi.	私はユミです。
② () Ken.	ぼくはケンだよ。
③ You () Sakura, right?	あなたはさくらさんですね？
④ () you a baseball fan?	あなたは野球ファンですか？
⑤ — Yes, () ().	はい、そうです。
⑥ — No, () () ().	いいえ、ちがいます。
⑦ I () () a soccer fan.	私はサッカーファンではありません。
⑧ () () from Osaka.	ぼくは大阪出身じゃないんだ。
⑨ You () () Koji.	きみはコウジじゃない！
⑩ () () from America.	あなたはアメリカ出身じゃないんだね。

